

情報モラル教育の教材と資料に関する 教職志望大学生の意識

小 孫 康 平

〈要旨〉本研究では、教職志望大学生を対象に、小学生のための情報モラル教育の教材内容および教材作成に必要な資料に関する意識を計量テキスト分析から明らかにした。また、情報モラルの知識の有無と情報モラル教育の教材・資料の意識との関連性について検討した。その結果、「SNSのトラブルや危険」、「個人情報や情報社会の理解」、「インターネットの利用」等に関する教材が必要であると考えている。また、情報モラルの「知識有り」では、SNSやインターネットに関する情報について考えさせる教材を重視している。「知識無し」では、対処療法的な教材を重視していることが示唆された。一方、資料では、「SNSやネットのトラブル」、「実際の危険や事件」、「正しい使い方」等に関する資料を求めていることが明らかになった。

〈キーワード〉情報モラル教育 教材 資料 意識 計量テキスト分析

1. はじめに

2020年度から実施の新小学校学習指導要領^[1]では、「各学校においては、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」と記述されている。

このように、新小学校学習指導要領では、「情報活用能力」に情報モラルが含まれることを示し、児童の発達の段階を考慮して、教科等横断的に育成することとしている^[2]。

文部科学省（2017）^[3]は、教職課程の再課程認定に伴い情報モラルを含む教職課程コアカリキュラムを公表した。「教育の方法及び技術」では、情報機器及び教材の活用の「到達目標」の中で、「子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解していること」と記述されている。このように情報モラルの指導法は大学の教職課程において、主に「教育の方法及び技術」の講義の中で学ぶことになる。したがって、情報モラルは情報活用能力の中で指導することになるので教材内容を精選し、効果的に行うことが必要となる。

高木（2018）^[4]は、教職課程コアカリキュラムにおける情報モラルに関して、「指導者がその内容を学び手に、それがどのように重要であるかを教えなければならない。情報モラルは自然に身に付くことではなく、情報モラルの現状と課題、さらに、その影響について十分な指導が求められる」と指摘している。

坂本・今度（2018）^[5]によると、欧米では「情報モラル」という用語はなく、デジタル・シティズンシップが使われているという。デジタル・シティズンシップとは、「テクノロジー（情報技術）に関連する人的、文化的、社会的諸問題を理解し、法的・倫理的にふるまうことであり、情報技術の利用に関する適切で責任ある行為規範（リプル）である」と述べている。また、「現状の情報モラル教育は、活用、応用を前提とせず、危険なものであるからネットワー

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

クなどは極力使わない方が良いという生活指導になりがちである」と指摘している。

辰巳（2009）^[6]は、現在行われている情報モラル教育では、「～してはいけないなどの禁止理由を明確に説明できていない」と述べている。

教職課程コアカリキュラムに取り上げられている「情報モラル」を指導する上で、「教育の方法及び技術」を履修する教職志望大学生が子どもの情報モラルの指導に対して、どのような教材内容や教材作成に必要な資料を望んでいるのかを明らかにして、効果的な教材を作成することは急務である。しかし、教職を目指している大学生が情報モラルに関して、どのような教材で子ども達を指導しようとしているのかの意識に関する研究は、ほとんど行われていないのが現状である。従来の調査では、予め準備した選択肢を選ばせるという方法をとられることが多いが、この方法では、情報モラル教育に関する教材をどのように考えているのかについて、自由に表現できないので全てを明らかにすることができない^[7]。

そこで、本研究では教職志望大学生を対象に、小学生のための情報モラル教育の教材内容および教材作成に必要な資料に関する意識を計量テキスト分析から明らかにする。また、情報モラルの知識の有無と情報モラル教育の教材・資料の意識との関連性について検討することを目的とする。

2. 方法

2.1. 調査対象者および質問項目

対象者は、教職を志望している大学生251名を対象に実施した。質問項目は、「情報モラル教育を指導するためには、どのような教材（小学校の高学年、45分の授業で1回のみ）を準備するか」、「どのような資料があれば利用するか」であり、自由記述による回答を求めた。また、「情報モラル」とは何かについての知識の有無について問うた。

2.2. 分析方法

本研究は、テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェアである

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

「KH Coder」^[8]を用いて頻度分析および共起ネットワーク分析を行う。頻度分析とは、出現頻度が高い単語ほど重要度が高いと見なす。また、共起ネットワーク分析とは、2つの単語について同じ文章中に同時に出現（共起）すると関連が強いと見なす。今回、共起ネットワーク分析の結果では、「サブグラフ検出」で表現した。サブグラフ検出は、共起の程度が強いコードを線で結ぶことで関連性を把握できる。また、共起関係が大きい円ほど出現数が多いことを示すなどの特徴がある^[8]。サブグラフ検出では、同じサブグラフに含まれる単語は実線で結ばれる。一方、互いに異なるサブグラフに含まれる単語は破線で結ばれる。さらに、Jaccard係数（2つの集合間の類似性を表す指標）を用いることで、語と語の関連を比較的正確に示すことができ関連が強いほど1に近づく^[8]。

なお、Jaccard係数では「0.1以上は関連がある」、「0.2以上は強い関連がある」、「0.3以上はとても強い関連がある」と解釈できる^[9]。

3. 結果

3.1. 情報モラル教育の教材

文章の単純集計を行った結果、818の文が確認された。表1は、情報モラル教育の教材に関して、出現回数の多い単語から順に出現回数43までの単語をリストアップしたものである。「教材」が274回で一番多く、次いで「SNS」が265回、「準備」が233回、「理由」が230回、「情報」が212回、「考える」が131回、「インターネット」が120回、「ネット」が105回、「危険」が103回となっている。

表1 情報モラル教育の教材に関しての頻出語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
教材	274	スマートフォン	61
SNS	265	トラブル	61
準備	233	理解	59
理由	230	情報モラル	58
情報	212	知る	58
考える	131	指導	57
インターネット	120	問題	56
ネット	105	自分	55
危険	103	子ども	54
利用	97	多い	52
社会	84	増える	51
思う	82	携帯電話	47
児童	73	使用	47
小学生	72	使う	46
必要	72	人	46
持つ	65	身近	45
個人	64	正しい	43
使い方	63		

図1は、情報モラル教育の教材に関する共起ネットワーク分析の結果を示したものである。KH Coderの設定は、次の通りである。集計単位は段落、最小出現数は30、Jaccard係数は0.20以上、共起関係の検出方法はサブグラフ検出（媒介）を用いた。なお、数字は、Jaccard係数である。実線で結ばれた語のグループは7つであった。

①「SNS」、「準備」、「危険」、「トラブル」、「考える」、「児童」、「自分」、「思う」という8語のネットワークで構成されている。特に「SNS」と「準備」ではJaccard係数は0.52でとても強い関連がある。「SNSのトラブルや危険について考える教材」と解釈できる。具体的な回答としては、「SNSの危険性につ

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

いての教材を準備する」、「SNSでの様々なトラブルについての教材を準備する」といったものがあった。

②「教材」、「理由」、「インターネット」、「ネット」、「利用」、「必要」という6語のネットワークで構成されている。特に「教材」と「理由」ではJaccard係数は0.87でとても強い関連がある。また、「利用」と「教材」ではJaccard係数は0.31でとても強い関連がある。「インターネットの利用に関する教材」と解釈できる。「インターネットを使用する際の留意点についての教材を準備する」、「インターネットを利用するための注意事項についての教材を準備する」などの回答があった。

③「情報」、「社会」、「理解」、「個人」という4語のネットワークで構成されている。Jaccard係数は「情報」と「社会」では0.37、「個人」と「情報」では0.34で、とても強い関連がある。「個人情報や情報社会の理解」と解釈できる。「個人情報の取り扱いについての教材を準備する」、「情報社会の特性についての教材を準備する」などの回答があった。

④「小学生」、「スマートフォン」、「持つ」、「多い」という4語のネットワークで構成されている。特に「小学生」と「スマートフォン」ではJaccard係数は0.34でとても強い関連がある。「多くの小学生がスマートフォンを持つ」と解釈できる。「小学生でもスマートフォンを持っている人が多く、気軽にインターネットとつながる」などの回答があった。

⑤「情報モラル」、「教育」、「指導」という3語のネットワークで構成されている。特に「情報モラル」と「教育」では、Jaccard係数は0.58でとても強い関連がある。「情報モラル教育の指導」と解釈できる。「情報モラル教育を指導する上でメールやSNS等に関する教材を準備する」などの回答があった。

⑥「正しい」、「使い方」、「知る」という3語のネットワークで構成されている。特に「正しい」と「使い方」ではJaccard係数は0.35でとても強い関連がある。「正しい使い方を知る」と解釈できる。「正しいSNSの使い方を指導する」、「ネットを利用するにあたって正しい使い方を知る」などの回答があった。

⑦「スマホ」、「使う」という2語のネットワークで構成されている。「スマ

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

ホの使用」と解釈できる。「スマホの使い方について授業を行う」などの回答があった。

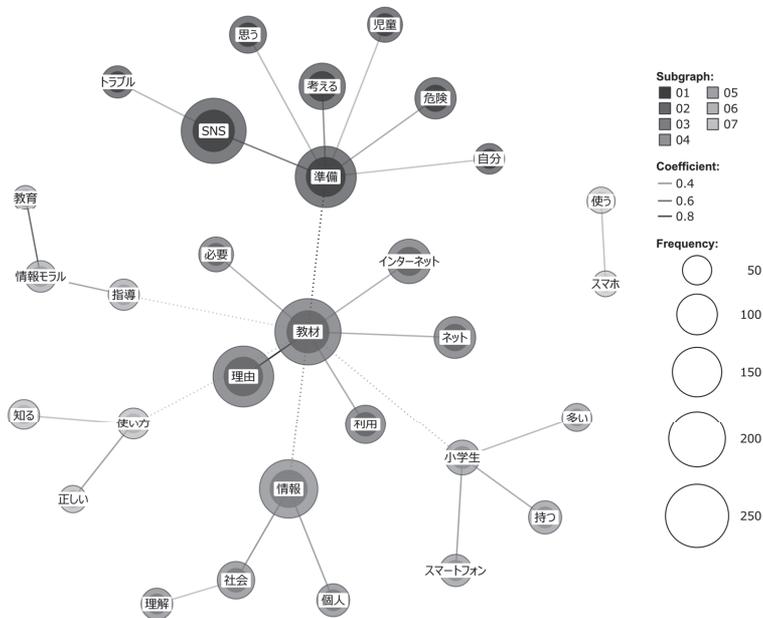


図1 情報モラル教育の教材に関する共起ネットワーク分析

次に、KH Coderの「外部変数と見出し」機能を用いて特徴語を分析した。外部変数としては知識の有無を用いた。集計単位は段落であった。

情報モラルとは何かについて、「知っていた」と回答した者（知識有り）は93名（37.1%）であった。一方、「知らなかった」と回答した者（知識無し）は158名（62.9%）であった。表2は、情報モラルの知識の有無別における情報モラル教育の教材の特徴語を示している。

「知識有り」では、「教材」、「理由」、「SNS」、「情報」、「考える」、「利用」、「インターネット」、「児童」、「思う」、「個人」といった特徴語が頻出していた。具体的な回答としては、「SNSから特定される個人情報についての教材を準備する」、「SNSの悪用であったり、個人情報の漏えいなどの問題が増えたりしている」、「インターネットの中には正しい情報があれば間違った情報も飛び

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

交っているので、常に疑いの目を持つ」といったものがあつた。

一方、「知識無し」では、「準備」、「危険」、「社会」、「持つ」、「小学生」、「必要」、「ネット」、「使い方」、「理解」、「多い」といった特徴語が頻出していた。具体的な回答としては、「正しい使い方を学び危険から身を守る方法を知る」、「ネットにおける危険性についての教材を準備する」、「ネットの危険性を啓発したポスターやネット犯罪による被害を掲載した新聞記事などの教材を準備する」といったものがあつた。

表2 情報モラルの知識の有無別における情報モラル教育の教材の特徴語

	知識有り		知識無し
教材	.376	準備	.586
理由	.373	危険	.283
SNS	.335	社会	.276
情報	.290	持つ	.260
考える	.264	小学生	.260
利用	.246	必要	.253
インターネット	.224	ネット	.243
児童	.213	使い方	.215
思う	.200	理解	.207
個人	.195	多い	.192

(数字は Jaccard 係数)

3.2. 情報モラル教育の資料

文章の単純集計を行った結果、727の文が確認された。表3は情報モラル教育の資料に関して、出現回数の多い単語から順に出現回数40までの単語をリストアップしたものである。「利用」が296回で一番多く、次いで「資料」が294回、「理由」が213回、「考える」が182回、「SNS」が181回、「実際」が135回、「ネット」が107回、「思う」が105回、「情報」が102回、「危険」が93回となっている。

表3 情報モラル教育の資料についての頻出語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
利用	296	事件	68
資料	294	知る	68
理由	213	起こる	67
考える	182	身近	66
SNS	181	理解	66
実際	135	子ども	52
ネット	107	被害	52
思う	105	事例	51
情報	102	情報モラル	51
危険	93	感じる	49
児童	91	使用	49
インターネット	87	指導	42
自分	81	人	42
トラブル	79	見る	40
問題	77	動画	40

図2は、情報モラル教育の資料に関する共起ネットワーク分析の結果を示したものである。KH Coderの設定は、次の通りである。集計単位は段落、最小出現数は30、Jaccard係数は0.18以上、共起関係の検出方法はサブグラフ検出（媒介）を用いた。なお、数字は、Jaccard係数である。実線で結ばれた語のグループは7つであった。

①「資料」、「SNS」、「トラブル」、「児童」、「生徒」、「ネット」、「問題」、「考える」という8語のネットワークで構成されている。特に「資料」と「考える」ではJaccard係数は0.49でとても強い関連がある。また、「SNS」と「資料」ではJaccard係数は0.41でとても強い関連がある。「SNSやネットのトラブルに関する資料」と解釈できる。具体的な回答としては、「SNS上の実際のトラブルについての資料があれば利用したい」。「ネット上の様々なトラブルにつ

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

いての事例の資料があれば利用したい」といったものがあった。

②「理由」、「身近」、「感じる」、「自分」、「見る」、「思う」、「知る」という7語のネットワークで構成されている。特に「身近」と「感じる」ではJaccard係数は0.38でとても強い関連がある。「身近に感じる資料」と解釈できる。「実際に起った事例やデータを使用することで身近に感じる事が出来る」などの回答があった。

③「実際」、「危険」、「被害」、「起こる」、「事件」、「巻き込む」という6語のネットワークで構成されている。特に「実際」と「起こる」ではJaccard係数は0.33でとても強い関連がある。「実際の危険や事件に関する資料」と解釈できる。「実際に事件に巻き込まれているということを知る」、「実際にどのような危険性が潜んでいるのかが分かるような資料を使用したい」などの回答があった。

④「情報」、「社会」、「個人」、「事例」という4語のネットワークで構成されている。特に「個人」と「情報」ではJaccard係数は0.33でとても強い関連がある。また、「情報」と「社会」ではJaccard係数は0.31でとても強い関連がある。「個人情報や情報社会に関する資料」と解釈できる。「個人情報の流出から起きた事件に関する資料があれば利用したい」、「情報社会で実際に起きた事例があれば使用したい」などの回答があった。

⑤「利用」、「インターネット」、「理解」という3語のネットワークで構成されている。「インターネット利用に関する資料」と解釈できる。「インターネット利用は危険が伴うことを理解する」などの回答があった。

⑥「情報モラル」、「教育」、「指導」という3のネットワークで構成されている。Jaccard係数は「情報モラル」と「教育」では0.64、「教育」と「指導」では0.46で、とても強い関連がある。「情報モラル教育の指導に関する資料」と解釈できる。「情報モラル教育を指導する上で、メディアリテラシーについての資料があれば利用したい」などの回答があった。

⑦「正しい」、「使い方」という2語のネットワークで構成されている。「正しい使い方に関する資料」と解釈できる。「正しいネットの使い方の動画についての資料があれば利用したい」などの回答があった。

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

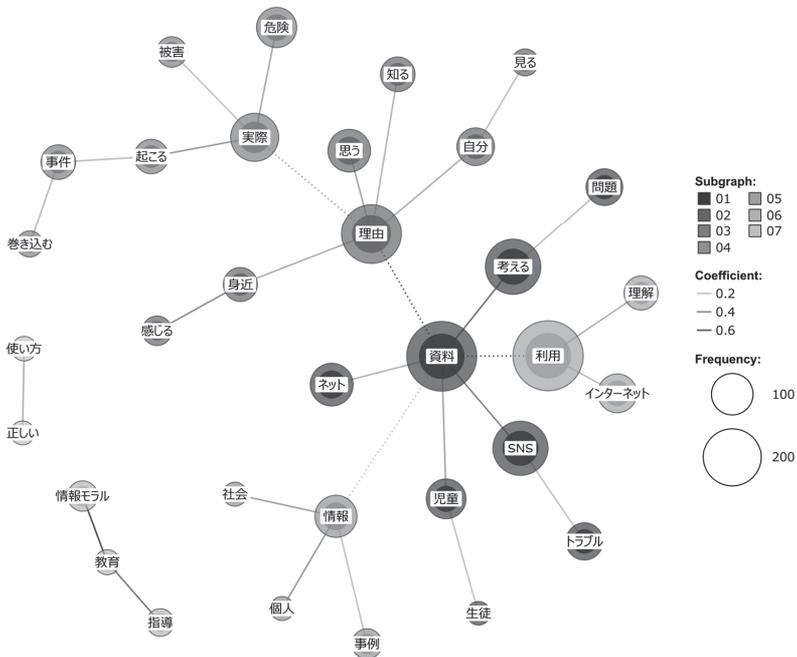


図2 情報モラル教育の資料に関する共起ネットワーク分析

表4は、情報モラルの知識の有無別における情報モラル教育の資料の特徴語を示している。

「知識有り」では、「考える」、「SNS」、「児童」、「思う」、「情報」、「ネット」、「自分」、「インターネット」、「知る」、「起こる」といった特徴語が頻出していた。具体的な回答としては、「情報社会の光と陰の部分に関する具体的な事例の資料」、「個人情報保護と情報漏えいについての資料があれば利用したい」といったものがあつた。

一方、「知識無し」では、「資料」、「理由」、「利用」、「実際」、「危険」、「身近」、「トラブル」、「理解」、「感じる」、「問題」といった特徴語が頻出していた。具体的な回答としては、「スマートフォンの危険についての資料があれば利用

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

したい」、「身近であるLINEを資料に教育していきたい」、「児童にイメージさせるために様々な実際のトラブルについての資料が必要だと思う」といったものがあつた。

表4 情報モラルの知識の有無別における情報モラル教育の資料の特徴語

知識有り		知識無し	
考える	.297	資料	.598
SNS	.276	理由	.591
児童	.221	利用	.579
思う	.209	実際	.325
情報	.195	危険	.264
ネット	.192	身近	.228
自分	.189	トラブル	.224
インターネット	.181	理解	.219
知る	.173	感じる	.183
起こる	.163	問題	.183

(数字はJaccard係数)

4. 考察

情報モラル教育の教材に関しては、「SNSのトラブルや危険」、「インターネットの利用」、「個人情報や情報社会の理解」、「多くの小学生がスマートフォンを持つ」、「情報モラル教育の指導」、「正しい使い方」、「スマホの使用」に関する教材が必要であると考えていることが明らかになった。

つまり、多くの小学生がスマートフォンを持っているので、「SNSのトラブルや危険」、「個人情報や情報社会の理解」、「インターネットやスマホの正しい使い方」に関する情報モラル教育の教材が必要であると考えている。「SNS」に関する記述の出現回数は265回であり、「情報」(212回)や「インターネット」(120回)の出現回数よりも多かった(表1)。SNSの急速な普及が子どもにも影響を及ぼしているため、早急に情報モラルを指導する必要があると考えたのであろう。

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

また、ネットゲームも盛んになっているので、ビデオゲーム依存に関しても情報モラル教育の中で積極的に指導する必要がある^{[10] [11] [12]}。

次に、情報モラルの知識の有無別の特徴語について考察する。

情報モラルとは何かについて、「知っていた」と回答した者（知識有り）は37.1%（93名）であった。一方、「知らなかった」と回答した者（知識無し）は62.9%（158名）と過半数を超えた。

白山（2018）^[13]は、教職課程を履修している4年生40人を対象に調査を行った結果、大学の授業で情報モラル教育を扱って欲しいと回答した学生は77.5%であり、生徒に指導する自信がまだないと考えている学生が過半数存在していると報告している。また、新ヶ江・泊（2017）^[14]は、大学入学時に情報モラル教育を行っているにもかかわらず、大学で情報モラル教育を受けたことがないと回答した学生が19.0%もいたことから、現在の情報モラル教育では学生に定着していないと指摘している。

本研究において「知識有り」では、「教材」、「理由」、「SNS」、「情報」、「考える」、「利用」、「インターネット」、「児童」、「思う」、「個人」といった特徴語が頻出していた。SNSやインターネットに関する情報について考えさせる教材を利用したいと考えているといえそうである。

一方、「知識無し」では、「準備」、「危険」、「社会」、「持つ」、「小学生」、「必要」、「ネット」、「使い方」、「理解」、「多い」といった特徴語が頻出していた。ネットの危険を理解させるなど、対処療法的な教材を考えていることが分かる。

情報モラル教育の資料では、「SNSやネットのトラブル」、「身近に感じる」、「実際の危険や事件」、「個人情報や情報社会」、「インターネット利用」、「情報モラル教育の指導」、「正しい使い方」に関する資料が必要であると考えていることが明らかになった。

情報モラル教育の資料の特徴語において、「知識有り」では、「考える」、「SNS」、「児童」、「思う」、「情報」、「ネット」、「自分」、「インターネット」、「知る」、「起こる」といった語が頻出していた。

具体的な回答としては、「情報社会の光と陰の部分に関する具体的な事例の

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

資料」といったものがあつた。このように、情報社会において情報とは何かを考えさせる資料を望んでいることが示唆された。

一方、「知識無し」では、「資料」、「理由」、「利用」、「実際」、「危険」、「身近」、「トラブル」、「理解」、「感じる」、「問題」といった特徴語が頻出していた。危険やトラブルへの予防および回避するために、身近な資料を望んでいると言えそうである。この点に関して、豊田（2019）^[15]は、「実際の情報モラルの授業では、目先のネットトラブル等への対処といった意味合いが強く、危険性周知と禁止・制限的な内容の指導が大部分を占めているのが現状である」と指摘している。また、酒井・田中・中村（2019）^[16]は、情報モラルのイメージの差を前提とした指導法の確立も課題として挙げている。

現在は情報モラルの効果的な指導法の模索が急務とされている。西川・山岸（2016）^[17]は、大学生を対象に知識や事例を紹介する事例紹介型指導と、学習者に実際に体験させながら指導する体験重視型指導の二つの指導法について検討した。その結果、体験重視型指導の方が効果的であると報告している。また、勝谷・東・稲積（2017）^[18]は、大学生がSNSを適切に運用できるようになるためには、情報モラルにかかわる事例についての知識を伝達するだけでなく、問題の背景や対策について考える演習が必要であると指摘している。

このように、より良い情報社会にするためには、情報メディアをどのように活用するのかを考えさせる教材および資料が必要となる。

なお、本研究は、平成30年度科学技術融合振興財団助成金によるものである。

5. 文 献

[1] 文部科学省、『小学校学習指導要領（平成29年告示）』, p.19, 東洋館出版社, 2018.

[2] 文部科学省,「低年齢層の子供やその保護者に向けたインターネットの適切な利用に関する教育及び啓発活動の推進について」, p.1, 2017.

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/kentokai/36/pdf/s3.pdf>
(2019.8.5取得)

- [3] 文部科学省,「教職課程コアカリキュラム」, p.22, 2017.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afeldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf (2019.8.5取得)
- [4] 高木展郎,「教育の方法及び技術」, 渋谷治美, 坂越正樹 (編著),『概説 教職課程コアカリキュラム』, p.132, ジダイ社, 2018.
- [5] 坂本旬, 今度珠美,「日本におけるデジタル・シティズンシップ教育の可能性」『生涯学習とキャリアデザイン』, Vol.16, No.1, pp.3-27, 2018.
- [6] 辰巳丈夫,「情報モラルの発展的解消」『PC Conference論文集』, pp.311-312, 2009.
- [7] 阪口祐介, 樋口耕一,「震災後の高校生を脱原発へと向かわせるもの－自由回答データの計量テキスト分析から－」, 友枝敏雄 (編),『リスク社会を生きる若者たち－高校生の意識調査から－』, pp.186-203, 大阪大学出版会, 2015.
- [8] 樋口耕一,『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』, ナカニシヤ出版, 2014.
- [9] 樋口耕一,「KH Coder 掲示板 (Jaccard係数)」, 2013.
http://www.koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?no=1313&mode=allread (2019.8.5取得)
- [10] 小孫康平,『ビデオゲームプレイヤーの心理学とゲーム・リテラシー教育』, 風間書房, 2016.
- [11] 小孫康平,『デジタルメディア時代における教育方法と遊び』, 風間書房, 2018.
- [12] 小孫康平,「ビデオゲームと付き合い方をテーマとした情報モラル教育の実践」『デジタルゲーム学研究』, Vol.12, No.1, pp.31-35, 2019.
- [13] 白山雅彦,「教職課程における情報モラル教育の扱いについての考察－学生への意識調査をもとに生徒指導も考慮した在り方について－」『秋田県立大学総合科学研究彙報』, N0.19, pp.73-85, 2018.
- [14] 新ヶ江登美夫, 泊羊子,「アンケート調査に基づく情報モラル教育の分析」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』, Vol.49, pp.269-

情報モラル教育の教材と資料に関する教職志望大学生の意識（小孫）

273, 2017.

- [15] 豊田充崇, 「対話的な学びを重視した情報モラル指導用教材の開発とその有効性」『和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究』, Vol.3, pp.21-28, 2019.
- [16] 酒井郷平, 田中奈津子, 中村美智太郎, 「大学生の道徳的規範意識と情報モラルの関連性の分析－情報モラルへのイメージに関する自由記述を対象として－」『静岡大学教育実践総合センター紀要』, Vol.29, pp.37-46, 2019.
- [17] 西川幸太, 山岸芳夫, 「大学生の情報モラル教育における体験重視型指導の効果」『コンピュータ&エデュケーション』, Vol.40, pp.79-84, 2016.
- [18] 勝谷紀子, 東るみ子, 稲積宏誠, 「研究プロジェクト報告 大学生の情報モラル教育：SNSの利用とコピペ問題に焦点を当てて」『青山インフォメーション・サイエンス』, Vol.45, No.1, pp.10-15, 2017.

Consciousness of teaching materials and documents on information morality
education in undergraduate teacher-trainees

Yasuhira KOMAGO

Abstract

The consciousness of undergraduate teacher-trainees about teaching materials and documents on information morality education for elementary school students was examined using quantitative content analysis. Moreover, correlations between knowledge about information morality and consciousness about teaching materials and documents were examined. The results indicated that participants considered that teaching materials on “problems and risks of SNS,” “understanding about personal information and the information society,” and “the use of the Internet,” among others, were necessary. Participants with knowledge of information morality considered it essential to develop teaching materials that provoked children to think about SNS and the Internet. However, participants without such knowledge regarded teaching materials with temporary coping methods as useful, and also needed documents dealing with “problems about SNS and the Internet,” “actual risks and incidents,” and “correct methods of use,” among others.

Keywords: information morality education, teaching materials, documents, consciousness, quantitative content analysis